

る。細かい文法現象を雑然と知っているだけでは充分でなく、まず考えていることをその言語のわくに従って大ざっぱに表現する能力を養うこと、それが先決であろう。そして、そこに基礎文法入門書の存在価値がある。

ともあれ、外国人著書の単なる翻訳や模倣ではなく、日本人の手になるまったく独自のビルマ語文法書が現われたことを喜ぶたい。(大野 徹)

Willard A. Hanna. *The Formation of Malaysia, New Factor in World Politics*. New York : American Universities Field Staff, Inc., 1964. vi+244p.

アメリカの大学の海外地域研究機関としてユニークなものに、1951年発足した American Universities Field Staff, Inc. がある。これは外国とくに発展途次国の社会研究の新しい接近方法として、いくつかの大学によって組織され、学術的外交機関の役割をもつものである。すなわち staff member は外国に居住し、その国の重要な発展をファーストハンドに報告しうるよう、その国を熟知することにつとめる。かれらは、定期的にアメリカに帰り、参加大学の訪問教授となつて、授業やセミナーを担当、教授間の討論に参加、学生を指導するほか、教授や理事のコンサルタントの役割をはたす。同時に AUFS Reports として海外からの通信を参加大学に報告する。これが発展して、AUFS Reports Service となり、現在では参加大学以外にも公開されている。

著者 Willard A. Hanna 氏は、1954年以来 AUFS の staff member として Djakarta, Kuala Lumpur および Singapore をベースに、東南アジア、とくに、その革命と革命指導者について研究、*Bung Karno's Indonesia* (AUFS, New York, rev. ed., 1961) と *Eight Nation Makers : Southeast Asia's Charismatic Statesmen* (St. Martin's Press, 1964) の著書がある。

本書は1962年2月、AUFS Reports に掲載された *Malaysia, Federation in Prospect* をはじめ、その後、月を追って掲載されてきた報告の集録である。最後の報告は1963年9月に書かれた *The Maphilindo*

*Formula* である。本書はこれら合計24編の報告に、序文の *Confrontation in Southeast Asia* と、追記 *Malaysia in Regional Contest* とがつけ加えられている。

したがって、マレーシア発足前後の1年半の期間の現地通信の収載だといえよう。それだけに、スカルノ大統領とラーマン首相との、あるいは“guided democracy”と“political freedom”との対決を、生々しく伝えている。いわば、この劇的な期間の記録として、興味ある文献だと思われる。もちろん、1965年のマレーシアからのシンガポールの分離については触れていない。しかし、その予想さえもされていないし、また同年9月30日運動にはじまるインドネシアの変動についての予測も見られない。本書を通読して、いかに東南アジアにおける政治状況の予断がむずかしいかということ、痛切に感ぜさせられる。

もちろん、本書がねらっているところ、すなわちマレーシア連邦がいかにして形成され、だれゆえに東南アジアにおいてのみならず世界的な意味での利害の衝突点になったかとの問題について、説明を加えることに十分に成功している。本書は現実分析と将来予想とをむすびつけることが、とくに東南アジアの場合いかに困難であるかを教える。(本岡 武)

Guy Wint (ed.) *Asia, A Handbook*. London : Anthony Blond Ltd., 1965. xiii+852p.

ハンドブックというものの、900ページに近い大冊である。

アジアの範囲と地域分類がおもしろい。アジアを South Asia, Central Asia, The Far East および South-East Asia に4分する。South Asia にはインド、ネパール、パキスタン、セイロン、Central Asia にはモンゴリアとソ連領中央アジア、The Far East には中国、台湾、ホンコン、日本、南鮮、北鮮、ソ連領シベリアと極東、さらに South-East Asia にはビルマ、タイ、カンボジア、ラオス、南ベトナム、北ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピンを含む。いわゆる西南アジアは、アジアのなかには入れていない。

本書の構成を見よう。第1部は Basic Information であつて、以上の諸国の面積からビザにいたるまで90